

常盤中学校コミュニティスクールだより

No. 3

令和7年度の第3回学校運営協議会が、2月17日（火）10時から常盤北小学校の大会議室等で行われました。

第3回は、全体会を常盤小学校・常盤北小学校と合同で行いました。分科会では、それぞれの学校に分かれて、今年度の学校の取組について報告し、学校運営協議会の委員の皆様からご意見をいただきました。また、来年度の学校運営について説明し、委員の皆様から仮承認をいただきました。



〈令和7年度 学校運営協議会参加者〉（常盤中学校）

【学校運営協議会 委員】

栗原 勝義	会長	山本 夕紀	副会長				
志水 正	委員	柴崎 八重	委員	佐藤 マミ	委員	中田 清人	委員
新船 孝子	委員	小金井忠夫	委員	菊地 耕太郎	委員	熊坂 創	委員
玉崎 芳行	委員	藤田 雅彦	委員				

【常盤中学校】

曳地 常和 教頭 大嶋 陽介 教頭



〈学校運営協議会の様子〉

【全体会】

はじめに、各学校で実施した第2回学校運営協議会の内容について、常盤中学校・常盤小学校・常盤北小学校それぞれの教頭から報告しました。

第2回では、各学校において、給食試食会を実施したり、熟議に児童や生徒の代表が参加したりするなどして、学校運営協議会の委員の皆様と児童生徒が直接意見を交流する場面を設けていました。そして、熟議テーマである『あいさつ』をより活性化すべく、あいさつをする意義を児童生徒に浸透させていくために、学校、家庭、地域ができる具体的な取組について「児童生徒の『コミュニケーション力』向上に資する、学校、家庭、地域ができる具体的な取組について」を念頭に、学校・家庭・地域それぞれの立場から、現在取り組んでいることや今後取り組むことができる内容について、児童生徒からの意見も交えて、考えを共有しました。



【分科会】

分科会では、はじめに、令和7年度の学校評価の報告を行いました。

教頭より、全般的にいずれの項目においても、肯定的回答（「A：よくできている」および「B：できている」の合計）割合は前年度と大きな変化はないことを説明しました。肯定的回答割合のうち、「生徒」「保護者」は前年度比較でAの回答割合よりもBの回答割合が増加している項目が多い傾向があることを説明し、要因の一つとして、これまでの取組が定着し、意識が「当たり前」となったためとも考えられるものの、今後の生徒、保護者の様子、反応から様子を見ていく必要があると補足しました。また、自由記述については「学校・学年行事」「教職員と生徒、保護者との関わり」に係る肯定的意見が多く見られたことについても説明をしました。

次に、校長より、令和7年度の学校自己評価システムシートの報告を行いました。

「学びの質の向上に関する取組」「子どもの発達や心のサポートに関する取組」「地域とともにある学校づくりに関する取組」「教育環境の整備に関する取組」「教職員のキャリア形成に関する取組」、それぞれの項目について説明しました。

朝読書（毎日10分間）を日課に位置付け、静謐な読書時間が定着し、来年度も継続したいと考えていること、学校図書館の一人当たりの貸出冊数は4.5冊となり、全国平均数（3.9冊）を上回ったことについて説明しました。また、ICTの活用が叫ばれているものの、読む力、書く力の定着にも力を入れたいことを説明しました。

校長の思いとして「学校が楽しい」と感じる生徒を増やしたい、との思いで学校経営に邁進してきたものの、不登校やいじめに悩む生徒がいるのも事実であると説明しました。「嫌だ」と感じる基準には個人で差があり、「自分がやられて嫌な事は、相手にやらない」は通用しないこと、発達の段階に応じて、人を傷付けるとはどういうことか、子どもたちに伝えていく必要があること、この後の全体会で、小学校の方々と共有したいことを説明しました。

PTAのご尽力によるスクリレの導入、活用を通じて「情報をわかりやすく発信している」と回答した保護者の割合は95%となり、肯定的なお声を継続していただいたことを説明しました。

教職員のキャリア形成に関する取組については、いじめを疑う感度等は個々の教職員によって差があるため、意識の向上を図っていくことを説明しました。また、現在病休等で休んでいる教員がおり、心身の状態についても目を配る必要があることを説明しました。

⇒ 委員の皆様から、「ほのぼのタイム」に関する御質問、スクリレの活用方法周知についての御要望、学習環境についての御意見をいただきました。今後の教育活動に生かしてまいります。

さらに、令和8年度学校グランドデザイン及び学校評価システムシートの仮承認を行いました。

校長より、生徒会本部役員が中心となって、いじめをなくそう、より良い学校にしていこう、生徒の活動をより活発にしていこうと取り組んでいるところであること、成果の一端として、学校評価で「いじめを見落とすことなく思いやりを持った学校生活ができている」と回答した生徒は96%（R6:87%）に上ったこと、重点目標1を「教育DXの展開～質の高い深い学びの実現」としたこと、重点目標2を「生徒主体の活動の拡充とエージェンシーの向上」としたこと、個人としての主体性だけではなく、家庭や地域、仲間と支え合うことで協働エージェンシーの醸成を目指す意味合いを含めたこと、一部の部活動について、3年間をかけて再編を進めていくこと等、来年度以降の具体的方策や指標を示しました。

⇒上記の内容について、全委員より仮承認をいただきました。

分科会の振り返りとまとめとして、来年度も3校（常盤中・常盤小・常盤北小）の合同で学校運営協議会を行い、今年度の熟議テーマであるあいさつやコミュニケーションの向上について、さらなる取組につなげていくことを確認しました。



【全体会】

最後に、3校で集まり、分科会の内容報告を行いました。

小学校2校とも、自己肯定感を高める取組を続け、日常場面で当たり前にあいさつができるようにしていきたいと説明がありました。

閉会宣言では、学校を取り巻く多くの問題があるが、地域・家庭とも力を合わせ、社会全体の問題として取り組んでいく必要があることが述べられました。

来年度も引き続き、学校運営協議会での取組により、地域・家庭と協力して児童生徒の育成を図ります。御理解・御協力賜りますよう、よろしくお願いいたします。

